

干潟の保全・再生業務のご案内

建設コンサルタント建24第7493号：建設環境、廃棄物

干潟は私たちになじみの深いアサリ・ハマグリなどの二枚貝やカニ・ゴカイ類が生息し、クルマエビやカレイ・ボラ・ハゼなどの魚類が稚魚期を中心に餌場として、また捕食者から身を守るために利用しています。干潟は藻場とともに「海のゆりかご」と呼ばれています。二枚貝を初めとする多くの生物や物理化学作用によって、海の汚れ（有機物や濁りなど）が干潟上で浄化されるため「自然の下水処理場」とも呼ばれています。

しかし、近年の埋立や浚渫に伴う干潟や浅海域の減少、富栄養化に伴う赤潮やアオサの異常発生等による干潟生物の減少や浄化機能などの低下によって、従来当然のように享受してきた生態系サービス（食糧供給や水質浄化など）を私たちは十分に受けられなくなってきました。

特に近年、資源量の減少が著しいアサリなどの水産生物の回復については、種苗の効果的な放流場所の選定、潮干狩りや漁業、再生産の場の適正配置および取り上げ量の検討などを行い、統合的に管理することが望まれます。

当協会では干潟環境の調査・解析のほか、干潟造成や再生技術、水産資源の統合的管理について研究し、これらの技術をご提供しています。お気軽にご相談下さい。



養浜した砂場に産卵してきたカブトガニ



養浜の事例



● 環境調査

保全手法、造成・再生手法を検討するために現地の状況を把握します。

- ・生態系調査、水生生物の生息状況調査
- ・潮流、水質、底質などの環境調査
- ・既存資料調査、聞き取り調査 など

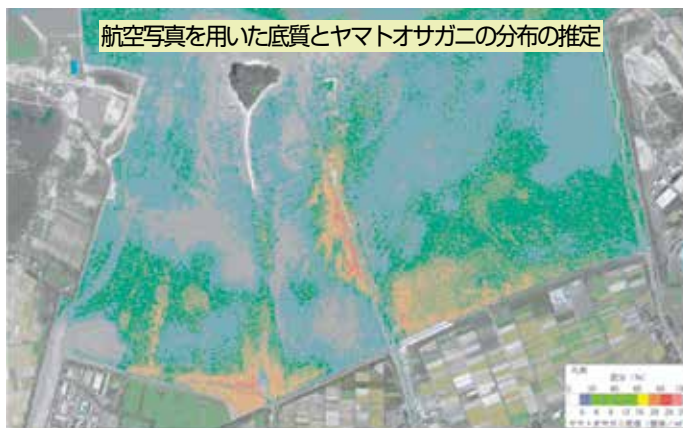


砂浜・干潟生物の採集

● 評価・解析

より効果的な保全、再生手法のための定量評価、モデル等による解析をおこないます。

- ・現地調査結果、航空写真等を用いた干潟の類型化
- ・多変量解析、モデルを用いた干潟生態系の構造解析
- ・水質浄化能、鳥類の餌場、漁業生産の場などの機能評価
- ・潮流、水質シミュレーション等による生育環境の予測・評価



航空写真を用いた底質とヤマトオサガニの分布の推定

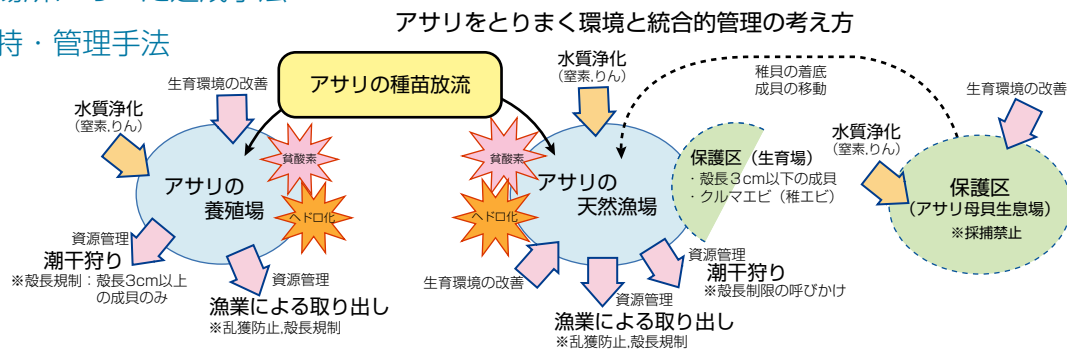
* 自然環境定量評価研究会との共同研究による

● 干潟の造成・再生・管理

数々の生物調査の経験をもとに、干潟造成・再生技術の研究をすすめてきました。

対象とする種、その場所に適した造成や再生、管理手法をご提案いたします。

- ・対象種、場所にあった造成手法
- ・最適な維持・管理手法



一般財団法人

九州環境管理協会

〒813-0004 福岡市東区松香台1-10-1

TEL 092-662-0410

FAX 092-662-0411(代表) 092-662-0424(水生生物調査課)

e-mail:syougai@keea.or.jp http://www.keea.or.jp

調査担当 : 環境部 水生生物調査課
 料金・見積担当 : 総務部 渉外課